ハーンをめぐる女性たち

■ギリシア・アイルランドの女性たち

ハーンと大叔母サラ・ブレナン

母 ローザ・カシマチ　ギリシア人　２歳のハーンを連れ、アイルランドに。
夫が西インドに単身赴任。ハーンが４歳の時に、ギリシアへ帰る。

大叔母 サラ・ブレナン　ハーンの祖母の妹。ローザとハーンを引き取る。
ハーンを跡継ぎと考えていた。17 歳の時に破産し、ハーンは窮乏する。

乳母 キャサリン・コステロ　アイルランド人　コナハト出身
幼いハーンに、妖精物語を語った。

幼児期に Believe me を歌った女性
七歳の頃、父の姉が住むメイヨー州で従兄弟と過ごした体験について
「向日葵」より要約

妖精が夜、輪になって踊った跡が草の上についたいうフェアリー・リングの中で眠ってしまうと行方知らずとなるというケルトの伝説を思い出し、ロバートが、「あいつら(妖精) は尖った針の先しか食べないんだよ」と言い、ぼくは怖くなる。二人のまわりには、松ぼっくりがたくさん落ちていて、細く尖った松の葉を食べる妖精が急に身近になる。そのとき、ジプシー風の竪琴弾きが家にやってくるのが見える。「ハープ弾きだ！」と叫んで、子供たちは家へ急ぐ。放浪の歌人は、見るからにがさつで、ハープを鳴らし、しわがれた低い声で歌いだした。

Believe me, if all those endearing young charms,Which I gaze on so fondly today

最初、たまらない反感を覚え「お前なんかが歌っちゃだめだ」と思う。

そのアイルランド歌曲は、「ぼくの小さな世界のなかで一番美しい、最愛の人がかつて歌ってくれた」歌だからだ。ところが、today という言葉から、声は、オルガンの低音のように澄んだ音色へと変わり、朗々と歌いあげるその響きの美しさに、感激のあまり涙してしまう。そして自分に魔法をかけたに違いないその男を恐れ、憎んだ。

■アメリカ時代の女性たち

最初の妻 アリシア・フォリー　（通称マティ）
ハーンの下宿屋の料理係で、物語りが上手。混血女性で子どもがあった。
1875 年 6 月 14 日に結婚。異人種の結婚を禁じるオハイオ州法に抵触
7 月末にシンシナティ・エンクワイアラー社を解雇される。
シンシナティ･コマーシャル社に原稿を寄稿し生活費を稼ぐ。
マティとの結婚もすぐに破綻する。
「救ってやるつもりが、かえって以前よりも堕落させただけだった。
結婚さえしなければ、たとえ地獄に落ちるにせよ、彼女の苦しみは
ずっと少なかっただろう」　（恩人ヘンリー・ワトソン宛のハーンの手紙）

記者仲間　エリザベス・ビスランド(1861 ～ 1929)
18 歳の時、ニューオリンズの新聞に載ったハーンの小説『死者の愛』を読み、ミシシッピーから会いに行き、ハーンと知り合う。ニューオリンズの新聞社社員となり、ハーンも後に同僚だった。
ハーン没後に書いた、1906 年『ラフカディオ・ハーンの生涯と書簡』は高く評価された。

■日本の女性たち

妻　小泉セツ（1968 ～ 1932）

1890 年 12 月に結婚、翌年２・３月との説もある。没落士族の娘。ハーンの身の周りの世話に当たった。

日本の物語を語り聞かせ、ハーンの再話文学を側面から支えた。

「浦島屋」女将　山下よし　熊本県宇城市三角町の

「夏の日の夢」で、乙姫のような魅力を描いた。

ウィリアム・B・メイソン(1853~1923 通信省）妻シカコ夫人

日本人女性を正式な妻としたメイソンをハーンは尊敬し、家族ぐるみのつきあいをした。

馬場はる（1886 ～ 1971）

富山市の海運業者馬場道久と結婚し 1 男 3 女を生む。夫と死別後、家業を支える。大正 12 年旧制富山高の建設資金を寄付。小泉八雲の蔵書をヘルン文庫として同校に寄贈。

旧制富山高校新設に向けての寄付申し出についての新聞記事

未亡人春子さん

往訪の記者に語つて曰く

痛々しくて不愍でなりませんでした、此の心持は私はかりでなく子を持つ親心は皆所くあらうと存じましたので若し此處に

高等學校の一ツも出來ましたなら幾分は救はれて入學難で困つて居る人が數はれると考へましたのと本縣には近く高等商業が出來ますものゝ現在では專門學校の外、中等以上の學校はなく本縣に此れがありますれは他縣へ出る必要もあるまいと考へまして高等學校と定めました次第でありまして

七年制と

いたしましたのも、中等科から高等科へ入學の試驗を經ずして進まれますので其方を選びました次第で寄附願書は十五日が、先代の命日にあたりますので十四日知事さんを御招ねして差出して参りました譯であります、其位置等に就ては何とも考へて居りません

知事さん

も好い事であるから速く進ませたいとお、仰しやつてでありました」

寄附申出

たが右に就て東岩瀬町の馬場家に未亡人を訪へはイトも感激に堪み深く語るやう「我て富縣のため且は報恩のため適當な事業がありましたなら寄附を致したいと考へて居りました所、今秋皇太子殿下の御歴事が行はせられますので聊か記念として

教育事業

に寄附を申出でた次第でありまして、私の一人の子供が本年慶應大學へ入學いたしましたが、其の試驗を受けますに就て試驗勉強のため苦勞を致しますのを、傍で見て居りますと

別項の如く馬場正治郎氏令孝子未亡人（春子）より高等學校建設並に維持費百万圓を本縣へ